

園長だより

2024年5月17日

園長 澄川忠男

◆絵本との出会い



絵本を好きな子どもたちがたくさんいます。担任が読み聞かせをするとき、一生懸命聞いて、一生懸命絵を見ています。

なかよしルームにはたくさんの絵本があるので、クラスごとに借りに来たり、担任が複数冊持って行ったりします。古い本もたくさんあるのですが、やはり新しい本が好きなようです。毎年新しい本を購入していますが、古い本の整

理もしていこうと思います。

さて、私たち大人が「本を読む」感覚というのは、「文章を読んで意味をつかむ、感想をもつ、何かを学ぶ・・・」のような気がします。しかし、園の子どもたちが「本を読む」というのは、大人のそれとは違って、「絵を見る」が主なように思います。



しかし、我々大人はいつの間にか、大人の「本を読む」を強いていないでしょうか。特に、小学生になってからは、そのように思います。その、ソフトチェンジの時期は、一人一人によって違い、〇歳になったらできるというものでもありません。徐々にいつの間にか自然に大人の「本を読む」に変わっていくものだと思います。



そのためには、子ども自身が本に興味を持ち続けることや本を嫌いにならないことが必要だと思います。たくさん本に出会うことや、途中で読むのをやめても最後まで強制しないことや、読み聞かせをしたり一緒に読んだりが大切なのではないかと考えています。興味を持てば、これから先の人生で、自分が必要な時に必要な本に出会い、一生本を身近な存在として読むことができると思います。



◆「あいさつ」は大切

いろいろな「あいさつ」がありますが、いくつくらい思い浮かびますか？「おはようございます・いってきます・こんにちは・いただきます・ごちそうさま・さようなら・ただいま・おやすみなさい・ありがとう・ごめんなさい・・・」大きな声で言える言えないは、人によって違うので強制はしなくてよいと思います。（声が出ないときは会釈もアリですよ）いつかは、本園の4つの約束のうちの一つ『あかるく元気に』を達成できるように、『場なれ』できるといいですね。お手本は我々大人です。私たち教職員はもちろんですが、保護者の方々も頑張りましょう。